

# Ἀγάπη

## アガペー

## 知っておきたいキリスト教のことば (2)

## 愛 あい

聖書は「愛」について書かれた書物、つまり神さまからのラブレターだという人がいます。わたしもその通りだと思います。実際に聖書の中に「愛」という漢字が何回出てくるか、調べてみました。「愛」という名詞もあれば、「愛する」、「愛され」といった動詞もありますが、旧約聖書には 266 回、旧約聖書続編には 98 回、そして新約聖書には 363 回も出てきます。新約聖書を読むと、1 年 365 日、ほぼ毎日愛を受け取ることができるということでしょうか。

ところがわたしは個人的に、この「愛」という言葉が苦手です。わたしの妻は外国暮らしが長く、妻を喜ばそうと頑張って「愛してる」と言おうとするのですが、なかなかできないのですね。

しかし、聖書の「愛」は、わたしたちが思い描く愛とは少し違うのかもしれない。1837 年以降、聖書を日本語に翻訳したカール・ギュツラフは、今の聖書で「愛」と訳されている部分を「御大切(ごたいせつ)」と訳していました。

さて、新約聖書の原語であるギリシア語には、愛をあらわす四つの言葉があります。一つ目は両性間の愛に用いられる「エロース」、この語は特に肉体的な愛に対する語です。二つ目は「ストルゲー」、この語は家族間の愛情、特に親から子、子から親への愛をあらわします。そして三つ目は「フィリア」、友情や夫婦間の愛に用いられ、「いつくしむ」という訳も用いられます。

そして、新約聖書の中で最も多く用いられている「愛」が、「アガペー」です。新約の「愛」のうち、320 回が「アガペー」とその派生語なのです。「アガペー」は、他の人の幸せのために持つ愛情や心配、願望といった強い思いで、神さまの本性の一つとしてあげられます。またクリスチャンにとって、信仰における最高の表現でもあります。「神は愛なり」、わたしたちもそれに倣う者でありたいものです。

次回は「証し」です。お楽しみに。



「放蕩息子の帰還」

レンブラント・ファン・レイン(1606-1669)

愛する者たち、互いに愛し合ひましょ  
う。愛は神から出るもので、愛する者  
は皆、神から生まれ、神を知っている  
からです。

(ヨハネの手紙一 4 章 7 節)

